



復興オリンピック・パラリンピックに向けた取組

東京2020 副事務総長
山本 隆

これまでの経緯

2014年6月 被災地3県知事訪問

- ・森会長、武藤事務総長等が岩手県・宮城県・福島県を訪問し、各県知事と意見交換
- ・今後の協力体制に関する共同文書締結



2014年7月 被災地復興支援連絡協議会 設置

- ・メンバー
東京2020、国（内閣官房、文部科学省、復興庁）、東京都、JOC、JPC、岩手県、宮城県、福島県
- ・親会1回、幹事会を4回開催



2016年7月 アクション&レガシープラン策定 2016年10月～ 東京2020参画プログラム開始

- ・「復興」をアクション&レガシープラン及び参画プログラムの柱と位置づけ、被災地での大会を契機とした様々なアクションの実施、レガシーの実現を推進



スポーツの力で子どもたちを励ます

若手アスリート参画プロジェクト

被災地で行われたイベントにアスリートを派遣し、スポーツ等を通して、被災地の子どもたちとの交流を行った。

2015年5月
(福島県いわき市)



運動会に参加

2015年11月
(福島県新地町)



スポーツ交流

2016年3月
(宮城県石巻市)



聖火台磨き

リオ2016大会を通じた取組例（東京都と共催）

リオから世界へ

フラッグハンドオーバーセレモニー

- ・東日本大震災の際に世界中の人々から差しのべられた支援への感謝の気持ちを発信



リオから被災地へ

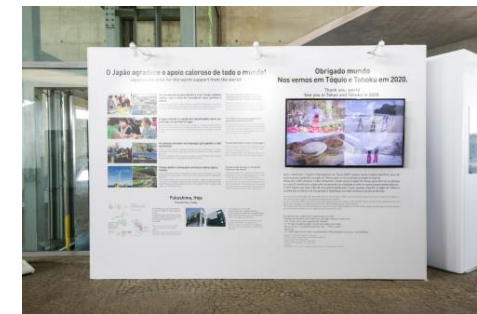
ライブサイト

- ・岩手県盛岡市(8/6,9/11)、
宮城県仙台市(8/13-14,9/15)、
福島県福島市(8/21-22,9/19)、
において、リオ大会のパブリック
ビューイング、競技体験イベント
等を実施



ジャパンハウスでの発信

- ・世界中から多くの人々が東北を訪れる
きっかけとなり、また復興をより一層
進める一助となるよう、元気を取り戻
しつつある東北の現在の姿を世界の方
々に知っていただくための映像やパ
ネル等で紹介



フラッグツアー

- ・福島県 (2016.11.2)
- ・宮城県 (2017.2.9)
- ・岩手県 (2017.2.17)
- ・熊本県 (2017.4.26)



参画プログラムでの取組例

被災地の復興に向けた取組を東京2020参画プログラム（テーマ：復興）として組織委員会が認証



○岩手県：いわて復興未来塾

東日本大震災からの復興を力強く進めていくため、復興を担う多様な主体が学び合う

○宮城県：東京オリンピック・パラリンピック強化支援対策事業

宮城からオリンピック・パラリンピアン輩出を目指し、選手強化活動を支援



○福島県：ふくしまからはじめよう。「地域のたから」民俗芸能承継事業

時代を超え、震災を乗り越え、福島の人と地域をつないできた民俗芸能への総合的支援

○福島県：いわき回転やぐら盆踊り大会

地元の方々とともに「東京五輪音頭-2020-」を踊り、被災地の文化・魅力を発信。当日の写真は、羽田・成田空港でのポスターとして活用。またJR東日本のポスターでも活用予定。



被災地の食と文化を発信

第5回Ioc調整委員会 公式夕食会

⇒2017年12月12日、組織委員会、東京都、復興庁で共催し、各県のご協力のもと、公式夕食会のメニューに被災地の食材を活用。また夕食会の前に行われたレセプションでは、各県のブースを設置し、地元産品の紹介を行った。



メニュー

●前菜

わかめ豆腐（岩手）ちぢみほうれんそうとセリの黒胡麻和え（宮城）あんぽ柿チーズ（福島）・揚げ帆立真丈 翡翠銀杏串打ち

●お椀

会津地鶏お吸い物 つみれ団子・大根・占地・針柚子・胡椒

●お造り

ホタテ（岩手）・メカジキ（宮城）・サーモン（福島）あしらい一式"

●～東北三県牛肉3種の味わい～

フィレ肉のポワレ ポルトルージュソース

牛バラ肉の赤ワイン煮込み

牛ロース肉のグリエ 山椒風味の和風ソース

ハタケシメジ（岩手）・しいたけ（宮城）・エリンギ茸（福島）のボルドレーズ

●食事

ササニシキ（宮城）にぎり三貫（ホタテ（岩手）・クロソイ（宮城）・焼椎茸（福島））

ミニ焼きおにぎり（味噌） 出汁を添えて

●デザート

いちご（宮城）のムースリング（岩手）とら・フランス（福島）のタルト"

これからの取組

「復興の火」

- ・復興オリンピックの観点から、東京2020オリンピック聖火リレーの開催に先立ち、ギリシャで採火した火を「復興の火」として、被災3県（岩手、宮城、福島）で順次展示する予定。

オリンピック聖火リレーコンセプト

「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」

- ・東京2020オリンピック聖火リレーは、聖火の光が多くの人々にとって希望の道を照らしだすものとする。
- ・震災から10年目の被災地を訪れ、復興に力を尽くされている方々にも、元気や力を届ける。
- ・震災当時世界中から寄せられた支援や励ましに対し、震災から10年目の日本の姿を感謝の気持ちとともに発信し、困難を乗り越える人々の力・不屈の精神をしっかりと伝える。
- ・東日本大震災被災3県（岩手、宮城、福島）については、日数の配慮をし、各県3日を設定。



被災地での理事会開催（2018年7月30日開催予定）

- ・復興オリンピック・パラリンピックの観点から、野球・ソフトボールの競技会場のある福島県で理事会を開催予定
- ・現場視察等も検討中



野球・ソフトボール競技会場
福島あづま球場

東京2020大会における飲食提供に係る基本戦略「飲食による復興支援」

- ・被災地食材を活用したメニューを提供、高品質の食材を生産できるまでに復興した被災地域の姿を発信
- ・被災地食材の安全性の適切な情報発信